

「みんなの管理組合」を運営する

す どう けい いち  
須藤 桂一さん(54)



ひと

ばならない。不安を抱える役員を「迷える子羊」と表現する。

分譲マンションを購入すると、誰もが輪番制で管理組合の役員を経験する。ノウハウも相談先もないまま、多額の積立金を動かす決断をし、苦情の対応を引き受けなければ

「同じ悩みを抱える人やアドバイザーをしたい専門家とつながれる場を」。2016年、Q&Aサイト「みんなの管理組合」をネット上に開設した。質問の投稿や回答をする無料登録者は今春、1000人を超え、閲覧数は月約2万回に上る。

20代半ばで家業のペンキ屋を継ぐ。外壁の塗り替え工事を受注したマンションの理事会に出席するうちに、いびつな関係が見えてきた。住民をサポートするはずの管理会社が自社の利益を過剰に優先し、住民が不信を抱いても追及する知識や知恵がない――。「業者と対等に渡り合う手助けをしたい」と19年前、コン

サルタント会社を設立し、ノウハウを蓄積した。サイトは手弁当で運営し、自社名も前面に出さない。「まずは手軽に相談できる入り口を作りたい」と割り切る。これまで800を超える質問の投稿があり、多くの経験談や専門家の助言が寄せられた。利用者は「自分のマンションと重なる悩みもある。選択肢が広がる」と話す。

6月上旬。初の利用者交流会が東京都内で開かれ、約20人が顔を合わせた。「サイトを通して『一人じゃない。仲間がいる』と伝えたい。より実感できる会になったかな」

東京都出身。大学の建築学科を卒業後、視野を広げようとゼネコンに就職し、現場所長も経験した。

文と写真・安高晋